

解熱鎮痛剤について

○解熱鎮痛剤とは？

皆さんは解熱鎮痛剤を使用したことはありますか？解熱鎮痛剤とはその名の通り、熱を下げたり痛みを和らげるお薬のことです。新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、ニュース等で耳にすることが増えたかもしれません。

この解熱鎮痛剤ですが、効果を示す仕組みや特徴はそれぞれの薬によって違いがあり、気を付けるポイントも異なります。そこで、どのような薬があるのか、それぞれの薬の注意点などを紹介します。

○解熱鎮痛剤にはどんな薬があるの？

解熱鎮痛剤は大きく分けて二つに分けられます。一つはアセトアミノフェン、もう一つはNSAIDs（エヌセイズ）です。NSAIDsの分類には、ロキソプロフェン、シクロフェナク、アスピリン等の多くの薬が含まれます。

私たちの体はウイルスなどの外敵が体に侵入した際、外敵と有利に戦うために熱を出します。これは体温が高い方が免疫力が高まるためです。しかし、発熱すると“だるさ”を生じ体の負担にもなります。このようなときに解熱鎮痛剤を用いると、熱によるつらい症状を軽減することができます。アセトアミノフェンとNSAIDsは共に、脳の体温調節中枢に作用し、体の熱が上がらないよう（発熱しないよう）に働きかける薬です。

痛みに対する効果（鎮痛）について比べてみると、アセトアミノフェンは痛みを感じにくくする中枢からの指令を促進するのに対し、NSAIDsは体の炎症部分で痛みを起こす物質の産生を抑えることで、鎮痛効果を示します。

薬の種類	解熱	鎮痛
アセトアミノフェン	中枢に作用	中枢に作用
NSAIDs	中枢に作用	痛みの炎症部分に作用

○アセトアミノフェンの注意点

比較的効果が穏やかで副作用が少ないと言われています。ただし、肝障害

に注意が必要です。特に過量投与で肝障害を起こしやすいため、病院から処方されたアセトアミノフェンを使用する際には、市販の風邪薬（アセトアミノフェンを含む製品があります）との併用は避けましょう。

ONSAIDs（ロキソプロフェン、ジクロフェナク、アスピリン等）の注意点

●注意が必要な人

・妊婦…羊水過少となったり胎児に悪影響を及ぼすことがあるため、NSAIDsではなくアセトアミノフェンが用いられます。例えばロキソプロフェンの場合、妊娠末期の女性には投与しないこと、妊娠末期以外の妊婦と妊娠している可能性のある女性には必要最小限で慎重に投与することとされています。

・小児…小児のインフルエンザや水痘患者にアスピリンやジクロフェナクを用いるとライ症候群に至ることがあるため、アセトアミノフェンが用いられます（アスピリンは川崎病など特定の疾患に対しては小児にも用いられます）。

●注意する副作用

・腎障害があらわれることがあります。腎臓の機能が重度に低下している場合は使われません。

・消化性潰瘍があらわれることがあります。対策としてレバミピドなどの胃薬と一緒に処方されることがあります。空腹時の服用は避けたり、服用する際にお水を多くとることも胃を荒らしにくくする方法の一つです。

Q 新型コロナウイルスのワクチン接種後に解熱鎮痛剤を服用して良いの？

A ファイザー社が行った大規模臨床試験では、被験者の多くがNSAIDsなどの解熱鎮痛剤を服用しており、特に問題なかった事が報告されています。

厚生労働省が行った調査においてもアセトアミノフェン以外にNSAIDsも使用できることが示されました。さらにアメリカ疾病対策センター（CDC）も、アセトアミノフェンとNSAIDsが使用できることを示しています。

また近年では解熱鎮痛剤の服用はワクチンの抗体獲得に影響しない（ワクチンの効果を低下させない）との報告もされています。

～ご不安な点やご不明点などありましたら薬剤師にご相談下さい～